AGRI WORK POINT
アグリ ワーク ポイント

茶
いよいよ一番茶摘採の時期になります！

茶指導販売課　亀山 毅人

萌芽期から一番茶摘採まで

新芽が包葉の2倍の長さになった状態（図1）のことを「萌芽」といいます。この萌芽状態の芽が茶園全体の70％を超えた時期を「萌芽期」と呼びます。例年、管内では3月下旬～4月上中旬頃になります。

一番茶の摘採時期と摘採位置

【摘採時期の判断】

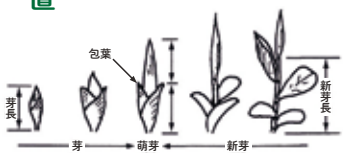
新芽は生長終期※に新芽の展開がいったん終わり、芯が小さくなって出開き状態になります。

一定面積内で芯が止まった 出開き芽の割合「出開き度」が、一番茶では50～80％になった時が摘採適期とされています。また、一番茶の新芽は約5日で1枚開葉し、管内では4.5葉開葉した時が推定摘採期です。

※出開き…茶芽が完全に開葉し、それ以上伸長しない状態のこと。

【一番茶摘採の高さ】

摘採の高さは、生葉に古葉などの異物が混入するのを防いだり、茶樹の樹勢を維持させたりするために、一番茶新芽の下葉を最低1.5葉程度残して摘採するとよいとされています。



※図1「芽と新芽」やさしい茶業講座 参照

一番茶後の施肥

一番茶後肥料を効率よく効かせるための4つのポイント

(1)茶樹の肥料吸収量は気温上昇に伴い増えていくため、一番茶摘採後、速やかに施肥しましょう。

(2)窒素の流亡を防ぐため、短時間で大雨が予想される場合は施肥を避けましょう。

(3)濃度障害を避けるために、一度に多量な施肥ではなく、2週間以上期間を空けて2回以上に分けましょう。

(4)肥料を良く効かせるために、施肥後は耕うんして、土壌と混和させましょう。施肥は雨後が基本です。